

評価結果書案に対する大学法人からの意見への回答について

1 1 全体評価【全体的な実施状況】 遅れている取り組み 年度計画[48]他（9頁2行目以下）

評価書案	薬学研究科の教員が医学研究科修士課程の平成20年度設置に向けて文部科学省との事前調整やカリキュラム案作成などの設置申請準備を進めたことは評価できる。
法人意見	医学研究科による課程設置のための準備に、薬学研究科の教員が参画しました。そこで、これを明らかにするため、評価書案を次のような文章に差し替えて頂けますと幸いです。 薬学研究科の准教授4名が医学研究科修士課程の専任教員として参画し、同課程の平成20年度設置に向けて文部科学省との事前調整やカリキュラム案作成などの設置申請準備を進めたことは評価する。 （評価結果案24頁10行目以下をご参照下さい。）
委員長回答	全体評価の場合には、詳細な評価は項目別評価で記述しているため、簡潔にまとめてあります。 ただし、医学研究科による課程設置のための準備に、薬学研究科の教員が参画したことを明らかにして欲しいという法人の意見を反映し、 「<u>薬学研究科の准教授4名が専任教員として参画し、</u>医学研究科修士課程の平成20年度設置に向けて文部科学省との事前調整やカリキュラム案作成などの設置申請準備を進めたことは評価できる。」と修正することとします。

2 1 全体評価 【全体評価にあたっての意見、指摘事項】 3 (11 頁 9 行目以下)

評価書案	一方で、「一般選抜入試の見直し」、グローバルCOE（大学院の教育研究機能を一層充実・強化し、国際競争力のある大学づくりを目的として、文部科学省が募集をする事業）など「大型研究資金の獲得」、「教員業績評価制度の構築の検討」、「学生及び社会のニーズに即した学科の新設及び再編の検討」といった重要な課題については、着実な歩みがあったとは言い難い。
法人意見	「学生及び社会のニーズに即した学科の新設及び再編」について、次のような実績がございます。 ○ 薬学部の6年制の学科設置（年度計画26） ○ 経済学部学科再編準備（年度計画28） ○ 医学研究科の修士課程設置準備（年度計画51） ○ 看護学研究科における専門看護師教育課程及び実践コース助産学分野の開設準備（年度計画61、62）
委員長回答	年度計画をよくご確認ください。年度計画[271]は、中期計画[152]の趣旨を踏まえて、18年度に何を検討したかを記述するものです。 法人意見にある「薬学部の6年制の学科設置」、「経済学部学科再編準備」は、法人化前から検討し、方向性が決まっていた事項であり、平成18年度に「学生及び社会のニーズに即した学科の新設及び再編について新たな検討」が行われたものではありません。 また、医学研究科及び看護学研究科における取り組みは評価しますが、あくまでも大学院での取り組みであり、「学科の新設及び再編の検討」という年度計画[271]の記載内容に対応する実施状況の記述はなされておりません。

3 2 項目別評価 大学の教育研究等の質の向上に関する項目 第1教育に関する項目 【進捗状況の確認に当たっての意見、指摘事項】 年度計画[2][3] (18 頁 12 行目以下)

評価書案	また、推薦入試は大学と地域社会との連携を強化する意義も持つものであり、この点からの検討も必要である。
法人意見	「推薦入試は大学と地域社会との連携を強化する意義を持つ」とのご指摘の意味をもう少し噛み砕いて御教授いただけますと幸いです。
委員長回答	業務実績報告書では、看護学部では現在の方式でも優秀な入学者を確保できているため推薦入試を見送ったとされています。評価書では、法人の側のこうした自己評価に対し、公立大学としては、推薦入試は一般入試とは異なった仕方地域社会のすぐれた人材を確保する方法の一つであることを考えていただきたいという趣旨を述べたものです。

4 2項目別評価 大学の教育研究等の質の向上に関する項目 第1教育に関する項目 【進捗状況の確認に当たっての意見、指摘事項】 年度計画[104]（22頁2行目以下）

評価書案	なお、市立大学においては、学生自身による就職支援活動への大学側の働きかけが見られないように思われる。
法人意見	本学における次のような活動について、ご説明が足りなかったように思われます。 本学には、就職活動を支援することを目的とする学生サークル「L i N C」が活動しています。 参加する学生は経済学部・人文社会学部の4年生20名程度で、活動内容は、就職活動を終えた先輩による3年生に対する相談活動、内定者を囲む会などのイベントの開催等です。 大学としては、活動への各種アドバイス、情報提供、会議場所の提供等の支援を行っています。
委員長回答	法人意見の内容は、業務実績報告書に記述されておらず、評価の際には不明であったものです。このような意欲的な取り組みがあったのであれば、業務実績報告書にしっかりと記述しておいていただきたいと思います。次年度の業務実績報告書で、すでに平成18年度には行われていた取り組みとして詳しくご紹介ください。

5 2項目別評価 大学の教育研究等の質の向上に関する項目 第2研究に関する項目 【実施状況】 遅れている項目 年度計画[180]（27頁23行目以下）

評価書案	・高齢者を対象にした公開講座の開講についての、テーマ、講師、定員等の具体的内容の検討 [180] アンケートの回収率、回収数、内容の特徴、参加者の反響で特記すべき点などが不明である。また、年度計画の「検討する」が、報告書において何ら表現を変えず「検討した」と記述されているだけであり、十分に実施したとは判断できない。
法人意見	19年度の公開講座の内容は、19年度に入ってから決定するため、18年度中は検討にとどまったというものです。 なお、検討した結果、平成19年度の市民公開講座に関しましては、 医学研究科 「前老年期を健やかに生きるために」 薬学研究科 「中高年に忍び寄る生活習慣病とくすり」 経済学研究科 「日本経済の動向を見抜く」 人間文化研究科 「環境と健康 - 豊かなくらしと自然を求めて - 」 芸術工学研究科 「カメラワークと音楽から見た映画の楽しみ方」 看護学部 「生活習慣病にならないために」 システム自然科学研究科 「中高年の健康づくり」 をテーマとして予定しており、より高齢者向けの内容となっております。（業務実績報告書に対するご質問への回答について（集約版）55頁をご参照下さい。）
委員長回答	何度もお答えしていることですが、年度計画において「～について検討する」という記述があれば、業務実績報告書においては、その検討の内容、時期、今後の予定等について簡潔に記述していただくことが必要であると考えます。 なお、19年度に実施したことについては、19年度の業務実績報告書の中でしっかりと記述していただきたいと思います。

6 2項目別評価 大学の教育研究等の質の向上に関する項目 第2研究に関する項目 【実施状況】 遅れている項目 年度計画[181] (27頁27行目以下)

評価書案	・卒業生などの協力を得た、高齢者等を講師とする公開講座の開講についての手法等の検討 [181] 検討した具体的な内容がわからない。また年度計画の「検討する」が「検討した」と記述されているだけであり、これだけで十分に実施したとは判断できない。
法人意見	学内の地域連携・公開講座委員会（平成18年12月開催）におきまして、高齢者、団塊の世代など、官民のOBを講師として迎えることを提案し各研究科に呼びかけ選定を続けておりますが、現在のところ候補者の選定にはいたっておりません。平成19年度中の実現に向け、引き続き調整してまいります。（業務実績報告書に対するご質問への回答について（集約版）56頁をご参照下さい。）
委員長回答	質問へのご回答（集約版）の記述によっても、平成18年度は候補者の選定に至っておらず、引き続き調整するとの記述があるのみで、年度計画に記載のある「手法等の検討」がどこまでなされたのか不明です。

7 2項目別評価 大学の教育研究等の質の向上に関する項目 第3社会貢献等に関する項目 【評価にあたっての意見、指摘事項】 年度計画[198] (30頁18行目以下)

評価書案	・名古屋市教育委員会主催の「教えて博士！なぜ？なに？ゼミナール」への積極的な参加 [198] 参加件数の大幅な増加は評価するが、名古屋地域の児童の発明への取り組みの立遅れへの自覚と克服への努力が必要である。
法人意見	「名古屋地域の児童の発明への取り組みの立遅れへの自覚と克服への努力が必要」というご意見について、更に噛み砕いて御教授賜れますと幸いです。
委員長回答	「なぜ？なに？ゼミナール」の参加件数の大幅な増加については評価しています。 しかし、名古屋地域においては、少年少女発明クラブがようやくこの6月に設立されたばかりであることから、「なぜ？なに？ゼミナール」だけではなく、発明クラブ等への出前講座を行うなど、市立大学として、より幅広い取り組みが必要であるという意見を述べたものです。

8 2項目別評価 自己点検・評価、情報の提供等に関する項目 【実施状況】 遅れている事項 年度計画[323]（48頁6行目以下）

評価書案	・ 市民、受験生等への情報提供活動を積極的に展開 [323] オープンキャンパス等において市立大学広報を配布するだけでは、積極的な情報提供活動を行ったとはいえない。
法人意見	市民に対しては、「市立大学広報」のほか、「大学案内」、生涯学習情報誌「知の広場」、各種公開講座のちらし等を、様々な機会を捉え配布するとともに、ホームページの刷新や情報量の増加、マスメディアへの情報提供の充実などの情報提供活動を行いました。 （第3回評価委員会における質問に対する回答4頁をご参照ください。） 入学志願者等に対して、次のような広報を行いました。 ○ 入学者受入れの方針を学部ごとに明らかにした。（年度計画1） ○ 大学のトップページをリニューアルするとともに、トピックス等、情報量の増加を図った。（年度計画5） ○ オープンキャンパス（高校生等の大学見学）を充実させた。（年度計画5） ○ 「大学案内」を高校生の視点を意識したものに一新した。（年度計画5） ○ 大規模な進学相談会（平成18年6月名古屋レインボーホール、平成18年7月ナゴヤドーム）に各学部から教員を派遣（年度計画6）
委員長回答	法人意見の内容は、年度計画[323]の実施状況に記述がなく、回答4頁を見ても、ホームページの刷新以下の記述では具体的な情報提供活動の内容が不明です。 業務実績報告書の該当の項目に、関連する項目があれば、相互の関連がわかるよう、正確に記述をしていただきたいと思います。

9 2項目別評価 その他の業務運営に関する項目 【実施状況】 遅れている事項 年度計画[333]（51頁6行目以下）

評価書案	・ 耐震工事が必要な建物について、優先順位と工事財源の確保策の検討 [333] 耐震工事の優先順位の検討にとどまり、自主財源も含め工事財源の確保策の検討はできなかった。
法人意見	工事財源の確保策については、大学内部での財源確保が困難であることから、施設整備費補助金として名古屋市に財源の確保を求めています。（第3回評価委員会における質問に対する回答6頁をご参照ください。）
委員長回答	評価委員会の判断としては、評価書案のとおりと考えております。